

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	「コロナ禍の脆弱な多言語コミュニティ支援」事業
資金分配団体名:	認定特定営利活動法人日本都市計画家協会
実行団体名:	NPO法人多文化フリースクールちば
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	千葉県
事業対象者:	特にアフガニスタン・スリランカコミュニティと多言語の生徒

Version 3.2

日付: 2022年3月12日

## I. 事業概要

事業実施概要	千葉県に居住するアフガン、スリランカを中心とした外国人コミュニティは、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、それ以前より抱えていた言語や文化の壁を理由とした必要な情報へのアクセスの問題が顕著となり、孤独な生活を強いられている。また、それらのコミュニティでは失業などの経済的問題により通学や進学をあきらめざるを得ない子どもが増えている。本事業では、コロナ禍においてより脆弱性が高まった外国人コミュニティの支援ニーズを掘り起こし、課題を解決に導くネットワークを形成する。また、コミュニティに属する子どもたちのフリースクールへの継続した通学を支援するとともにフリースクールの組織基盤を強化する。
--------	--

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>①「ニーズ掘り起こし、ネットワーク形成」であるが、千葉県で急増しており、かつ情報が少ないアフガニスタンとスリランカコミュニティをアウトリーチ活動により実態把握を実施する計画を立てた。そのために、ペルシャ語、シンハラ語、タミール語のアンケートを作成し、活動を開始した。ただ、アンケートそのものにも警戒心を抱く対象者が多く、何度も足を運ぶ必要があった。それに加えて、8～9月のコロナ第4波によって、それぞれのコミュニティにもクラスターが発生し、訪問を拒否される状況となった。このため、アンケート回収率は目標の80%（121部）にとどまっている。また、8月のアフガニスタン政変で家族の退避問題の対応に追われた。</p> <p>②「フリースクール支援とその組織基盤強化」であるが、8～9月にコロナ禍で一時教室を閉鎖した。その間オンライン授業へと切り替え、その被害を最小限に抑えた。新規入国者減でスクールへの入会者は減少しているが、高校進学を希望する16名全員が無事合格した。また、多言語の新規HPとパンフレットを作成すると同時に、これらを自力で更新できる体制を作り上げた。そして、現在は情報や教材をデジタル化も進めている。</p>
-------------------	--

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	アウトリーチ活動による外国人の支援ニーズの掘り起こしと課題解決	アンケート回収数 相談件数	150部 250件	121部 500件以上	いずれも8～9月、1～2月のコロナ禍の影響による。特に、相談はアフガニスタン支援の中心になっているメンバーには「アフガニスタン」のワードが入っているメールが現在まで3990通をカウントしている。リファは、アフガン退避や技能実習生のビザ更新問題の支援体積構築から保健所連絡・病院等付添までさまざまなものがあった。
外国人・外国にルーツを持つ人	連携の不足	課題解決に導くコミュニティ内のネットワーク、行政・学校など関係機関とのネットワークの形成	関係機関へのリファ	30件	58件	
外国人・外国にルーツを持つ人	学習機会の不足/格差	高校進学を希望する子どもへの高校進学サポート	高校進学希望者の進学	高校進学希望者90%の進学率	入会者27名のうち16名が高校進学希望者で、全員が合格	新規入国者が制限されているために、高校進学希望者以外の生徒も積極的に入会させた。入管政策が今後どのようなようになるか不明であるが、高校進学希望者を優先しつつ、それ以外の生徒もできるだけ入会させたい。スクールの基盤強化は、新規HPの公開と新規パンフレット作成を行った。現在、学生インターン生や外部の協力を得て、運営の全面改革・デジタル化を進めている。
外国人・外国にルーツを持つ人	その他	スクールの運営と組織基盤の強化	スクール参加希望者数	2022年度のスクール参加希望者が30名となる	2021年度の参加者は27名であった	

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	<p>①アウトリーチ活動を通じて基礎的データが収集され、関係機関にリファーされる。その中で、脆弱性の高い外国人の利用できる相談機関を明確化することによって、本スクールへの相談も含めて250件の相談が寄せられる。</p> <p>②フリースクールへ通う高校進学を希望する外国人の子どもの進学率が90%になる。また、2022年度以降のフリースクールへの入会者が常に30人になる。</p>
考察等	<p>①8月から9月にかけて、多数の相談がコーディネーターやフィールドワーカーに寄せられた。その内容はコロナ感染に関するものと、アフガニスタンからの退避に関するものであり、いずれも深刻で緊急を要するものであった。その中で、退避に関するものは現在もサポート体制を継続させているが、緊急時の相談体制確立の必要性を改めて痛感させられた。特に、母国語を話す通訳の確保である。そのため、現在高校を卒業したアフガニスタン・スリランカ人生徒を中心に働きかけを行っている。</p> <p>②新規入国者が制限されているために、今年度の入会者は27名、高校受験者は16名にとどまった。ただ、その全員が受験に合格した。今後は、多言語になった案内パンフレットやHPを活用し、サポートを必要とする生徒を発掘し、高校へとつなげる活動、さらには高校卒業後を見据えた活動にも取り組む。</p>

## V. 活動

活動	進捗	概要
コーディネーターの雇用	計画通り	予定通り2名を雇用した。
フィールドワーカーの雇用とアウトリーチ活動準備	ほぼ計画通り	フィールドワーカーは6人を予定していたが、その内の1人アフガニスタン人は自分自身が家族の退避問題を抱え、12月初まで活動ができなかった。アウトリーチの準備はフィールドワーカーへの講義を行い、対象コミュニティの3言語への翻訳を行った。
行政、関係機関と連携したアウトリーチ活動	遅延あり	この間アンケート配布において佐倉市・四街道市教育委員会との連携が進行したが、8～9月、1～2月のコロナ感染拡大によって活動全体が遅延しており、基礎データに基づく新しい行政、関係機関との連携の協議等はまだまだできない。
ニーズの共有と解決の協議	ほぼ計画通り	直接対面で実施することはできなかったが、オンラインでは断続的に実施した。
ホームページおよびパンフレット制作	計画通り	いずれも少数言語に配慮しており、3月中に公開・配布。
ワークショップ、心理社会的サポート	遅延あり	外部を含む生徒向けワークショップは実施したが、他は実施できなかった。基礎データ処理後、課題を明確にし実施したい。
関係機関へのリフォーラル、セルフヘルプの準備	遅延あり	個別的課題についてはその都度対応してきたが、全体的課題についてはアウトリーチ活動の遅延により十分にはできていない。
フリースクール（1日4時間週5日）の開催	計画通り	一時期オンライン授業となったが、無事高校受験までこぎつけ、全員を高校入試合格へと導いた。
通学に必要な交通費の補助	計画通り	面積的に広大な千葉県全域から通う生徒に、通学定期代と通勤定期代の差額を補助できた。
事務スタッフの雇用と税理士との契約	計画通り	事務・経理担当者を雇用した。また、税理士と契約を行った。
ガイダンスの開催と資料のWEB公開	計画通り	9月から10月にかけて県内3か所で参加者を制限して実施し、計309名の参加があった。また、HPで11言語の資料を公開した。
保護者会の実施	中止	予定していた夏休みと冬休みがいずれも感染拡大期に当たり、中止せざるを得なかった。

## VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>①（アウトリーチ活動）アフガニスタンコミュニティに関しては、調査そのものに警戒心が強い、リーダーやキーマンが存在しない、ヤードが家族・親族などの単位で経営されて閉鎖的である等々の困難がある。また、スリランカコミュニティにも難民申請や技能実習問題の構造的問題を抱えており、寄せられる問題は深刻で、個人や個別の団体では解決ができない。これらから、必要な情報をどのように伝えるか、彼らのニーズにどう対処するか等の更なる検討が必要である。また、深刻な問題に対してはどのようなネットワークが必要か等の検討がなされなければならない。この間、第1次相談窓口として日本語教室が重要な位置を占めていることが認識でき、ネットワークに参加してもらえるように訴えていく。</p> <p>②（スクール活動）今年度は、コロナの影響を受け会費（授業料）の滞納者が多い。一方、来日して2年間適切に日本語を学べる場所を見つけられなかった生徒が11月に本スクールに入会したことから、私たちの情報が広く伝わっていないことも痛感した。これらへの対応として、財政的にはスクール外からも広く寄付等の支援を受ける体制が必要であり、情報提供には多言語のHPやパンフレットの活用が求められる。</p>
---------------------	--

## VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>①（アウトリーチ活動）この間、アウトリーチ活動を通して、佐倉市教育委員会と四街道市教育委員会の協力が得られた。また、山武市ではこのアウトリーチ活動に刺激を受け、自らも在住外国人（特にスリランカコミュニティ）への調査を開始した。このように、私たちの今回の活動は行政・教育委員会等の課題と大きく重なっており、さらに連携の強化が求められる。</p> <p>②（スクール活動）今年度、千葉市教育委員会と四街道市教育委員会の訪問を受けた。訪問の目的は、2017年の教育機会確保法によって在籍中学生の学びの場に本スクールがなっていることによる視察であった。そのことに対する高い評価を受けたが、それと同時に中学校を卒業したが日本語が十分でないために高校進学できなかった生徒の存在とその生徒を指導する本スクールの意義を理解してもらおう機会でもあった。その後、千葉市教育委員会での研修会に講師として呼ばれている。</p> <p>①と②も、今後の方向性を示していると思われ、今後積極的に連携を図っていく。</p>
-----------	---

## VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
千葉大学移民・難民スタディーズ	アウトリーチ活動・アフガニスタン退避問題を中心に情報共有・学習会等を連続して行った
佐倉市教育委員会・四街道市教育委員会	アンケート用紙を在籍児童・生徒を通して家庭への配布への協力
日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス	9月～10月に千葉県内3か所（松戸・千葉・市川）での進路ガイダンス開催。全参加者数309名
進路（進学）ガイダンス主催者交流会	1月、進路ガイダンスを実施する関東を中心とする主催者の情報交流。今年度は千葉県が中心となり、オンラインで開催。参加約150名
千葉大学「グローバル・ボランティア講座」	授業の中での講演とスクールへの学生ボランティア5名受け入れ（オンラインでの授業）
千葉大学「学生ボランティア実践入門講座」	授業の一環として、学生と一緒に国立歴史民俗博物館での共同授業への参加（佐倉ツアー）

## IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	6,920,600	2,899,762	41.9%
	管理的経費	1,234,400	81,308	6.6%
合計		8,155,000	2,981,070	36.6%
補足説明		2月28日現在（清算前）		

## X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<p>1. NPO法人多文化フリースクールちばのHPを全面的に改修中（近日中に公開予定で、その中に掲載）</p> <p>2. アフガニスタン人受け入れに関する要請、TBSラジオ 荻上チキSession（2021年9月10日）</p> <p>3. Chaotic evacuation from Afghan capital highlights weaknesses in Japan's asylum system, Foreign Correspondence Club, October 2021, <a href="https://www.fccj.or.jp/number-1-shimbun-article/kabul-tokyo">https://www.fccj.or.jp/number-1-shimbun-article/kabul-tokyo</a></p> <p>4. おびえるアフガン人に「命のビザ」を、朝日新聞、2021年11月30日、<a href="https://www.asahi.com/articles/ASPCY6X65PCVUDCB009.html">https://www.asahi.com/articles/ASPCY6X65PCVUDCB009.html</a></p>
2. 広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	<p>1. 千葉アウトリーチPPT版・フィールドワーカーガイド</p> <p>2. NPO法人多文化フリースクールちばの新規ホームページ</p> <p>3. スクール案内パンフレット</p>
3. 広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	<p>1. NPO法人多文化フリースクールちばHPに掲載</p> <p>2. 報告書表紙に掲載</p> <p>3. コロナ感染防止用アクリル板に貼付 等</p>
4. 報告書等	<p>1. 「コロナ禍の脆弱多言語コミュニティ支援（第1次）報告書</p>

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	スクールが冬休みに入る12月に臨時総会を開催する予定であったが、コロナ感染拡大を受け中止し、今年6月の通常総会で議論することになっている
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	いいえ	コロナの感染者が出たりして、理事会の開催を中止したり、オンラインで実施せざるを得なかった。
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	